

財団法人 8020 推進財団

平成 21 年度 歯科保健活動助成交付事業報告書抄録

1. 事業名： 進行する高齢化社会において高齢者の尊厳を維持し、生涯現役で暮らすことを目標にした地域歯科医師会および地域ケアプラザ連携による地域包括介護システムの構築とその効果に関する検討

2. 申請者名：栗家 匡 星野 了 山田 史学 西山 潔 笠原 一臣 湯田 宏 瀧澤 卓也
田中 政代

3. 実施組織：神奈川県歯科医師会地域医療委員会 新子安ケアプラザ 反町ケアプラザ
羽沢ケアプラザ 神之木ケアプラザ 片倉三枚ケアプラザ 菅田ケアプラザ

4. 事業の概要：

この事業の目的は、口腔機能向上事業や口腔機能向上サービスのマネジメントを行う地域包括支援センターおよび介護事業所と連携し、地域の高齢者の口腔内の状況、歯科医療のニーズの把握を行い、この調査データを基に、口腔機能向上事業、口腔機能向上サービス、歯科治療が円滑に提供できるネットワークを構築する。

また地域療高齢者の生活機能が低下する前に口腔機能の重要性を認識してもらい、そのためには咬合の回復、口腔機能向上訓練、口腔ケアが必要であることを、対象者、家族、介護関連職種の方々に啓蒙する。

5. 事業内容：

神奈川県内にある 6 か所の地域ケアプラザにおいて、年 2 回、希望する高齢者に対し歯科検診およびアセスメントを実施、健診結果を神奈川県地域医療委員会で作成した管理ソフトに記録する。この時治療の必要がある対象者に関しては本人、家族に受診を促す。同時に「お口の健康教室」を開催し歯科医師および歯科衛生士、栄養士から高齢者、介護従事者に向けて、口腔機能リハビリテーションや口腔ケアの啓発を行う。

その後 6 か月の間隔をおいて対象者の咬合の支持、口腔機能、口腔内環境および介護度、ADL、認知機能などの生活機能の変化を調査し、対象者および介護関連職種への啓蒙活動の効果を検証する。得られた調査データは地域包括支援センターの事業担当者および施設スタッフと共有し、それを基に口腔機能向上事業および介護サービス、また歯科診療を円滑に提供できるように介護関連職種とのネットワークを構築する。

6. 実施後の評価（今後の課題）

今回は管理ソフトの開発に時間がかかった為、神奈川県内 1 施設のみで歯科検診、アセスメントを実施した。対象者は、総数 36 名。平均年齢は 83.9±7.9 歳、65 歳以上 79 歳以下は 11 名 (30.5%)、80 歳以上が 25 名 (69.5%) であった。また対象者は全員、要支援・要介護高齢者であり、一般高齢者や特定高齢者の参加はなかった。高齢者の口腔機能に対する意識を変化させ、口腔機能向上事業やサービスを効果的なものにするために、歯科医療関係者が高齢者本人や事業所のスタッフに対する教育やバックアップ体制を充実させることが必要で、また口腔機能の低下の恐れのある高齢者を早い段階で選定するために、地域の医療、保健、福祉の分野が連携し協力体制を築くことが重要であると思われる。今後この事業を推進して得られたデータを分析し、包括支援体制の構築に反映させたい。